

OMIYAプロジェクト—都市の夢

9月24日(土)～12月11日(日)

市民会館おおみや 旧地下食堂 SMF学校、氷川参道、周辺市街地

都市と田園が自然に隣り合う埼玉県。大宮駅周辺はその象徴のような街です。武蔵一之宮・氷川神社や中仙道大宮宿の歴史を受け継ぎ発展してきた東口。約2kmにわたる豊かな参道の延長線上にはさいたま新都心、大宮駅の西口にはソニックシティなど、隣接して近未来の都市の夢を担った人工空間が聳えています。その鮮やかな対比がこのエリアの魅力でもあります。

SMFが「さいたまトリエンナーレ2016」にアートユニットとして招聘され、トリエンナーレ会期中に市民会館おおみや内で「SMF学校」プロジェクトを開催することとなったのに伴い、「あなたとどこでもアート」実行委員会では、「SMF学校」と連携して「さいたまトリエンナーレ」を支援しアート活動の活性化を図るべく、「OMIYAプロジェクト—都市の夢」、「TANBOプロジェクト—田園の夢」、「北浦和おかわり芸術祭」を同トリエンナーレの市民プロジェクトとして、会期をあわせて実施することにしました。

「OMIYAプロジェクト」では、小野養豚さん、田中清隆さん、井上唯さん、松本秋則さんの4名のアーティストが、それぞれの個性的でプライベートな視点から、氷川の杜や周辺市街の空間にアプローチし、ほのかな光やなつかしい音色で彩りやわからかに息づかせました。

小野養豚さんは、一貫して豚さんをモチーフに制作されているアーティスト。ご実家の屋号と区別するために末尾に「ん」をつけて作家名とされています。「食」がメインテーマとなった今回は、「OMIYAプロジェクト／回遊美術館Ⅲ／SMF学校での食堂展」と大車輪でご活躍いただきました。夏休みのワークショップ(8月18日・25日 埼玉県立近代美術館 参加者:計37名)でペットボトルと紙粘土を素材に可愛い「空飛ぶトンちゃんマラカス」を作り、SMF学校の開校を祝ってこのトンちゃんマラカスを持ち寄り大宮でパレードしようという趣向でした。「さいたまトリエンナーレ2016」の初日はあいにく本降りの雨で、野外パレードに変わって磯辺行久さんの巨大エアードーム内での行進となりました。(9月24日 参加者:計28名)ミュージシャンの大澤加寿彦さんが作詞・作曲してくれた「トンちゃんマーチ」も世界初公開。さらに、ふわふわ、楽しくてどこか切ない名曲です。

(<https://www.dropbox.com/s/cm0o98wjwruhgv/トンちゃんマーチ.wav?dl=0> からぜひご視聴ください)同日、SMF学校開校式に続き、「小野養豚 食堂展」(9月24日～11月6日 来場者:計3,463名)もオープン、旅装束の花飾りをまとう昇天する豚さんたちの幻影が厨房に出現し、来場者に強烈な印象を刻みました。

光のオブジェを手がけている田中清隆さんは、大宮駅東口から氷川参道を経て新都心駅に至る周辺市街のギャラリーやカフェ、画材屋さん、観光案内所など、10カ所に光の作品を設置。マップ兼スタンプシートを作成して、スタンプラリーを楽しんでいたいただきながら、大宮の特徴あるお店や

アートのスポット知っていただくというアート散歩プログラムを行いました。(9月24日～12月11日 参加者:計2,068名)7つ以上スタンプを集めて応募すると、もちろん特製メッセージカードが届き、抽選で3名に光のオブジェ作品が贈呈されました。

編み込んだファイバーのオブジェで軽やかに空間を変容させる井上唯さんは、約170本のファイバーのキノコを氷川参道脇の植込みに設置し、参道を往来する人々を旅するキノコの不思議な世界に誘いました。(「旅するキノコ in 氷川参道」11月19日～27日、平成広場)キノコが放つほのかな光が広がる日暮れ時には、通りがかりの方々がスマホで撮影する姿が多く見られました。氷川様が守ってくださったのでしょうか。心配された作品の破損や盗難はありませんでした。展示初日の夕刻には、SMF学校のワークショップ参加者(11月19日 参加者:17名)の作品も加わりました。また田中清隆さんが駆けつけ、井上さんの光るキノコと田中さんの光の粒たちが、光のエールを交わしました。

竹のサウンドオブジェを使ったインスタレーションで活躍中の不思議美術家・松本秋則さんは、埼玉県出身です。1995年の「風の通り道」展では大宮ソニックシティに巨大なサウンドツリーを設置して人気を博しました。その音を聞いたお子さんも今は小さな子の手を引いているかもしれませんね。今回はワークショップ(11月3日 参加者:12名)のみの参加です。松本さんお手製のサウンドオブジェを30種(ほど会場に並べ、音の出し方を学んだ後に、各自好きな楽器を選んで合奏の練習、最後に「気まぐれ音楽隊」になってみんなで街に繰り出すという流れです。松本さんの手にかかる、空き缶も段ボール箱も、ゴミ袋までも、楽器になってしまいます。思わぬ演奏法やユーモラスな音程に驚いたり笑ったりした後、ちょっと緊張しながら新都心コンコースまで音を鳴らして楽しくパレードしました。

きわめて限られた予算の事業でしたが、アーティストのみなさんのしなやかな感性と機動的な対応、関係各位のご協力、さいたまトリエンナーレとの相乗により、期待通りのプロジェクトとなりました。

中村誠(事務局)

田中清隆「アート散歩:光のかたちを探して」作品設置場所
1. 大宮駅観光案内所 / 2. 大宮区役所北口玄関(さいたまトリエンナーレ作品受付) / 3. 石原誠美堂 / 4. ギャラリーゼフィール / 5. 氷川だんご屋本店 / 6. カフェ&ギャラリー あっふるはうす 7. エル・ポエタ1 エル・ポエタ2 / 8. BIS / 9. さいたま市民会館おおみや 旧地下食堂 / 10. さいたま新都心駅観光案内所
協力:さいたまトリエンナーレ2016実行委員会、公益社団法人さいたま観光国際協会、JR大宮駅、各作品設置店舗

小野養豚「空飛ぶトンちゃん大行進！」
インストラクター:小野養豚 / トンちゃんマーチ作詞・作曲:大澤加寿彦
ダンス協力:山田祐奈、上条美 / トントン隊員:別城拓志、宮地彩百合、松室ひかり、早川果歩、飯田瑠璃子

井上唯「旅するキノコ in 氷川参道」
設置協力:岡嶋聡美、青山恭之、永田博子、長野恒
協力:さいたまトリエンナーレ2016実行委員会、公益財団法人さいたま市公園緑地協会



小野養豚さん 「空飛ぶトンちゃん大行進！」でスタッフのみなさんと



「小野養豚 食堂展」



田中清隆さん アート散歩「光のかたちを探して」(BISでの展示)



氷川参道に置かれた田中清隆さんの「光の粒」たち



井上唯さん 「旅するキノコ in 氷川参道」



ワークショップ「ヒカルキノコを作ろう！」



松本秋則さん 不思議美術家・松本秋則さんと楽しむ、気まぐれ音楽隊

